

ホンシュウジカにおける体重測定のための馴致

谷 真由美

金沢動物園で飼育している2頭のホンシュウジカは15歳となり、高齢期に差し掛かってきた。冬場は特に被毛が深くなり、体型を把握することが難しくなるが、これまで体重測定を定期的実施しておらず、健康診断のための麻酔の際などに行っていた。しかし、高齢となり麻酔による処置のリスクが上がり、日常的な栄養管理や健康管理の一環で定期的な体重測定が必要と感じられるようになったため、今回の馴致を行うこととした。

今回は、No.2 アズキ(メス)という個体の体重測定馴致を行った。警戒心の強い個体のため、馴致により時間を要し、馴致開始から体重測定に至るまでに39日間を要した。体重測定の実施場所は寝室を出てすぐのサブパドックとし、寝室のオートドアに横付けでバースケールを乗せるための台を設置した。

初日から3日間は体重測定用の台を認識する期間とし、置いてあるということに馴らすようにこれまで通りの放飼・収容作業を行った。4日目に強化子であるペレットを使用しての台への誘導を始め、6日目に前肢を乗せることに成功した。その翌日には四肢が台に乗ったため、ここから20日間はスムーズに誘導できるように、担当者が出勤している日の放飼前に誘導を続けた。28日目でバースケールを入れた際の台の高さに近づけるために、台の下に9cmのコンクリート製の四角柱の脚を入れ、これまでと同じように誘導を行った。その後31日目に高さを12cmに変更し、バースケールと同じ高さとなった。そして初日から数えて39日目で初回の体重測定を実施した。

No.2という個体はこの方法で測定が可能であったが、No.1はNo.2より警戒心が強く担当者に着いてくるとも、強化子についてくるともなかったため、誘導での体重測定が困難であった。No.1の体重測定の方法を模索することが今後の検討事項である。また、No.2に関しても、天候や季節、対応する職員などの条件が測定に影響するため、今後も安定して測定できる馴致を検討していきたい。